

# 舞台芸術学科

## 教育目標（育成する人材像）

総合芸術である「舞台芸術」の真の意味を体験的に理解することで、舞台の現場あるいは広く一般社会において、一つの新たな価値観の創造に向かって、他者と協調しながら自己の能力を発揮し発信できる人間を育てます。

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### 修得する能力

探求力	広い視野から関心ある課題を選択することができる。また選択した課題に対して深く追求することができる
思考力	あらゆる情報や事象、自らの経験や知識と自身の課題との関係性を分析、整理して自らの意見を見出すことができる
発想・構想力	広い視野から考察した情報を、想像力を駆使して表現につながるものへと転換し構成していくことができる
表現力	思考や感情を身体や言語を駆使して社会に向けて発信できる。または視覚的、聴覚的にデザインし具象化できる
行動力	表現や言動を発信するために、積極的かつ实际的に社会に働きかけることができる
継続力	目標に向かって必要と思われることを実践する意欲と意志を保持することができる
コミュニケーション力	集団で共通の目標を達成する過程で、他者の表現や言動を自身を鼓舞する原動力として受け入れることができる。また他者に対し説得力ある表現や言動ができる

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- 自身が選択した領域を核としながら、総合芸術である「舞台芸術」を形成する領域すべてを〈トータルに学ぶ〉ことを目指す。
  - 1) 〈トータルに学ぶ〉ことにより、集団制作の場で、他者（他領域）を理解し、より高い相乗作用を発揮できる能力を身につける。
  - 2) 〈トータルに学ぶ〉ことにより、一つの物事（作品）を異なる視点から観察、考察できる能力を身につける。
- 「劇場」を教室として使うことにより、専門的スキルを高めるだけでなく、舞台人として他者と協働していくためのコミュニケーション能力を強化する。
- とくに1年次では、コースの枠組みを越えて舞台芸術全般の基礎的技術（トレーニング&プラクティス）と知識（ナレッジ&フィロソフィー）を習得する。
- 2、3年次では、「授業発表公演」（クリエイション&プレゼンテーション）において各々が能力を発揮することを目標に、舞台人としての専門的な技術や知識を習得する。
- 4年次では、集団製作に参加することを原則とした「卒業研究」（キャリア）を通して、舞台人として、また社会人として必要とされる真の自主性や協調性を実践的に身につける。